



補增

欽定  
樞

下之



橫





段樂乃 自のそとあつらん 七十八

は段樂乃 自のそとあつらん  
ゆゑなり 傳奉盛衰記 仲ふりさの  
に傳ふ小督乃 局とあつらん  
よまてとあつらん  
樂とあつらん  
相とあつらん  
相とあつらん  
相とあつらん

想夫恋 白氏文集六十八 想夫憐詩

王管朱絃莫急催 客聽歌送十分盃  
長愛夫憐弟二句 請君重唱夕陽開  
嶺府云于嶼 詠魚曲有想夫憐名不雅 客曰  
南朝製曲号想府 蓮語訛爾 即王儉 蓮  
幕夏

又まの... 想夫恋 相府... 又まの

王儉 撰 嶺云王儉字仲實表繁云此兒  
鍾小已有棟梁之器年十八拜秘書郎  
仕齊領東部用慶舉之為長吏蕭衍與  
儉書曰慶景行泛綠水依芙蓉何其麗  
時人以儉府為蓮華池 又まの...  
まの王文集 集乃序八文選四十六あつらん

# 想夫恋

什物

想夫恋といふ樂を女がとこ  
とあつらん  
りとい相府...  
ふるり 晋の王儉大臣  
くあよ...  
せし時のぐく...  
はと...  
鶯之廻鶯...  
こり...  
ふ乃...  
曾失追卷



文憲ハ儉リ溢リ 齊の尚書令とるなり 儉大はあり 一 元と大信と並府と中

廻忽 元のふらりて樂乃名とるなり 廻鶻國 元の薛延陀といひ又中比  
車部といひ 通鑑綱目註薛延陀其先匈奴自藥葛羅氏居薛延陀此安  
陵水上 元魏時号高車即 唐初為劫諸部唐德宗時請改号回鶻言其  
柘鞞猶鶻鳥之飛也唐書回鶻列傳云其先匈奴也俗多乘高輪車元魏時亦号高  
車部 十八史畧六唐憲宗元和三年沙陀朱耶蓋忠與其子執宜來降沙陀勁  
勇冠諸胡 蓋每戰以為前鋒後疑其貳於回鶻欲迂之河外懼而飯唐置之靈州  
註鶻本作統德宗時請改曰鶻鶻鶻鳥也取其鶻揚義 又云元初六回忽想  
文憲は平調子房とて第あり 下畧 七十九

平宣時 大信陰與る 東鑑建治十五  
年自弘安十五年至正安三年比條五  
即時忠後改宣時系圖云時政時房朝  
直宣時執權永恩寺殿

最明寺入道 時賴也上よみそり  
ヤとてPあり 出てまのうんとP  
まのうとまのうと

こゝろ 美祈あり  
まのうとこれ 考後まのうとこれ  
洗子まのうとけ 考後まのうとこれ  
まのうとこれ 考後まのうとこれ  
PとてPあり 出てまのうんとP  
まのうとまのうと

平宣時物後ぞれ後じり  
こりよ最明も入るありよ  
ひのちふふふふ事ほふ  
屋ぞとPありひとま  
あるてとくせかたに  
又使まのうとて車番ふとれ  
まのうとわおるれと

乃まのうと惟光にまのうとてとる  
くはく 出けのくうとてとる 腰を  
曲と

みそ 俗小味噌と云わ名集、未將と  
去義藤の訓、  
まのうとるんたんぬ 老子経知足不辱  
その世まのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ

まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ

まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ

まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ

まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ

まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ

まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ  
まのうとるまのうとる 考後まのうとこれ







約して示れもく身とを後ありとて用ひ  
さうんもさやうの法にありて事  
あひては後よく欲をとりて御事せん  
よりハ財ありんかハあつてとるぬ  
大福長者 貴い煙ある者も長者と  
もつとありてとるぬとてとるぬ  
天皇の須達長者月蓋長者皆富ゆ  
経華經にも長者孫子の諭も名義集  
長者西土之豪族也富商大賈積財  
万歳餘長者

煙とつくと 利煙とつり  
とつくと 利煙とつり  
てまのりて 利煙とつり  
人るき位なりといはれり 人るき  
さふりもあつておひつりてとるぬ  
死にぬれぬとぬぬありとぬぬを  
ありてありてとるぬとつり  
然りてありて 利煙とつり  
かれも手取をいひてとるぬとつり  
つりあり財をとりて 史記燕秦傳云  
且大王之地有盡而秦之末無已以有

重益之地而避無已之求此所謂正怨結  
禍者也 通鑑汝以有限之財以不可  
成之 莊子養生主吾生有涯而知也  
無涯以有涯隨無涯殆已 ぬぬとつり  
我どつりかてとるぬとつり ぬぬとつり  
ありありありありありありありあり  
つりありありありありありありあり  
小要とつりありありありありあり  
と遣つりありありありありあり

日親愛如兒字曰孔方失之則貪得  
之類 開難殺之口 錢多者 處前錢少者  
居後云 ぬぬとつりありありあり  
つりありありありありありありあり  
ぬぬとつりありありありありあり  
ぬぬとつりありありありありあり  
ぬぬとつりありありありありあり  
ぬぬとつりありありありありあり  
ぬぬとつりありありありありあり  
ぬぬとつりありありありありあり

と人との煙とほつんと思  
りてとるぬとつりありありあり  
はつひを修行とつりありありあり  
んとつりありありありありあり  
と人るき位なりといはれり 人るき  
さふりもあつておひつりてとるぬ  
死にぬれぬとぬぬありとぬぬを  
ありてありてとるぬとつり  
然りてありて 利煙とつり  
かれも手取をいひてとるぬとつり  
つりあり財をとりて 史記燕秦傳云  
且大王之地有盡而秦之末無已以有

乃後ありとつりありありあり  
と人との煙とほつんと思  
りてとるぬとつりありありあり  
はつひを修行とつりありありあり  
んとつりありありありありあり  
と人るき位なりといはれり 人るき  
さふりもあつておひつりてとるぬ  
死にぬれぬとぬぬありとぬぬを  
ありてありてとるぬとつり  
然りてありて 利煙とつり  
かれも手取をいひてとるぬとつり  
つりあり財をとりて 史記燕秦傳云  
且大王之地有盡而秦之末無已以有







切一先とも後生乃のめよのあまのれ金銀  
 とつやまといんとされは後生よ生れて金銀  
 乃堂は居る百味の飲食をうくは大衆よ  
 ありんとの然心ありあると生よくと布形紙  
 さらさらのききかたの似たり○或人の云は布形紙  
 するさの心願のやうのこころのうらむいさし  
 大衆の無欲は似たりといふもよとりのあし  
 つたといひあしりちま後生乃のめよ  
 愚按さるふは大福長者乃大衆の百方乃せふ  
 ありとも一後もつねに心願されん是後生の用  
 ざるはさるるもさるるもいひりあまのれいさ  
 てつるねとさるるもさるるも富らうあまのれ  
 又いひり後ありあまのれいさのわが我物とせむ  
 といひたれとあまのれを後生乃のめよとせむ  
 ていひたれとあまのれを後生乃のめよとせむ  
 せむ欲りし似たり  
 八十二  
 有徳はよは段はさるるいひりあまのれいさ  
 といひていひつる事とさるるもいひたれとせむ  
 せんといひつる事とさるるもいひたれとせむ  
 堀河殿 久我一門基具を段大衆の堀河

人乃乃らま成あちてあまのれ  
 うまのれいさのめよとせむいさのえまのれ  
 愚云此欲の右長者カゴトク財持テモ不世ニテ欲ヲナレ樂トセヨリ  
 欲とあてあまのれいさのめよとせむ  
 けりいさのめよとせむ財あまのれいさのめよ  
 癰疽とあまのれいさのめよとせむ  
 てたのいさのめよとせむいさのめよとせむ  
 ざらんとあまのれいさのめよとせむ  
 究竟の理即よいさのめよとせむ大衆の  
 河原のめよとせむ金人乃のめよとせむ  
 狐よららあにわのめよとせむ  
 中も乃のめよとせむいさのめよとせむ  
 よららあにわのめよとせむいさのめよとせむ  
 つさのめよとせむいさのめよとせむ  
 狐よららあにわのめよとせむ  
 中も乃のめよとせむいさのめよとせむ  
 よららあにわのめよとせむいさのめよとせむ  
 つさのめよとせむいさのめよとせむ

基傍大納言父也  
 中とのあ 仁和の成りつる一後生乃のめよ  
 ちとの仁和の成りつるいさのめよとせむ  
 四つとらやといひたれとせむいさのめよとせむ  
 より嵯峨へりし詠老乃のめよとせむいさのめよとせむ  
 聖とあまのれいさのめよとせむいさのめよとせむ  
 ちの仁和の成りつるいさのめよとせむいさのめよとせむ  
 あまのれいさのめよとせむいさのめよとせむ  
 いげぬ法師いあまのれいさのめよとせむ  
 い段のいさのめよとせむいさのめよとせむ  
 茶とのめよとせむいさのめよとせむ  
 命せらるる 命ハ命ありとしてよより作らる  
 好むとて命せらるるのいさのめよとせむ  
 藤林 昔々氏樂人の命せらるるいさのめよとせむ  
 昔々藤林の命せらるるいさのめよとせむ  
 命せらるる 命せらるるいさのめよとせむ

五条黄門令せらるるいさのめよとせむ  
 藤林の命せらるるいさのめよとせむ  
 命せらるるの也先自ありていさのめよとせむ  
 く短き命せらるるいさのめよとせむ  
 涼乃事乃いさのめよとせむ横笛乃  
 命せらるるの也先自ありていさのめよとせむ  
 く短き命せらるるいさのめよとせむ  
 涼乃事乃いさのめよとせむ横笛乃







つらつらお 不審なるおふと

ひそくふとをなと 龍林里下乃如

一律とぬを先るふ 律を調子乃事たり

いつし乃あをうと 一調子つていそも

圖乃こころ 調子乃呂律乃たのめ

多し律とさうりつて 呂律のさか

漢志云 陽律為律 陰律為呂 律

以統氣類物 氣以旅陽 宜氣呂 皆曰律

陽統陰云 季吟 乃乃のさか

ハ呂と陽と 一と一と 律と陰と 一と一と

是を吳和とのうりめ

るをこころと 宛乃るをさうり

必のくと 口とのさか

るをさうり

料管 とうりさうり

秋と若門乃を先る

先をさ びりりのさ

ハはく乃をさ

後をさ 論語子罕篇子曰後生可

畏焉 知來者之不知今也

素養 大林氏八幡の

後生は 是も 龍林地下の

又並好系

あしあやせて 龍ハ後

まふいとく 調子と合

まはさうり

性骨 天性も骨肉と

後とり 呂律乃の

雖有 妙音若無 妙指 終不能 震 汝 與 衆 生 亦 復 如 是

とふいふとさうり

あうりつてさうり

あうりつてさうり

とふ口傳乃さうり

くりてさうり

穴乃さうり

のくとさうり

らびあうり

穴もあうり

いづれもさうり

律乃拍乃さうり

とがさうり

あうり

のくとさうり

首楞嚴經 日 譬 如 琴 瑟 笙 篪 琵琶

うりつてさうり

さうり

何事もさうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり

さうり



あまのれし者乃鐘ハ一とせの美よと云

又一段抄云若乃鐘ハ律の

又二律ともいふも上

十二畢具黄鐘爲主

曰黄帝命伶倫爲律

鳳鳥之鳴以別十二律

故黄鐘宮律之本也

十二黄鐘律宮声也

のあり

白之沮漿經師子吼品

吼言世尊加來何故二

二月名春春陽之月萬

物生長種種根莖花果

百獸孕乳是時衆多生

知是常心説一切法悉

聖人會 天子乃忌日

天まのよと云ふると云

指南の車ハ起つ黄帝

車方角と云ふなり

車より方角の上より

圓公つらり多ふと云

いふまのなることと云

虎諸無相棄偷

祇園精舍 祇園をい

天下乃深養と云ふと

あまのれし者乃鐘ハ一とせの美よと云

又一段抄云若乃鐘ハ律の

又二律ともいふも上

十二畢具黄鐘爲主

曰黄帝命伶倫爲律

鳳鳥之鳴以別十二律

故黄鐘宮律之本也

十二黄鐘律宮声也

のあり

白之沮漿經師子吼品

吼言世尊加來何故二

二月名春春陽之月萬

物生長種種根莖花果

百獸孕乳是時衆多生

知是常心説一切法悉

聖人會 天子乃忌日

天まのよと云ふると云

指南の車ハ起つ黄帝

車方角と云ふなり

車より方角の上より

圓公つらり多ふと云

いふまのなることと云

虎諸無相棄偷

祇園精舍 祇園をい

天下乃深養と云ふと











いありいはいとんがら

い段ハ善報房乃我宗あり又つしと 八十六

竹谷 （伏見）

東二條院 （伏見） 善報房 （伏見） 乃我宗あり又つしと

揚利 （伏見）

善報房 （伏見） 乃我宗あり又つしと

善報房の上人の善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

竹谷 （伏見） 善報房 （伏見） 東二條院

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと

善報房乃我宗あり又つしと



信長公三男九条公内

府基家公号

八十八

陰陽師

安倍晴明十代の孫

三佐

論華

憲問篇

敏政地道

とりハ傳事あり

陰陽師

里のかりて

いづらよひろ

くあるぐらね事

いほそみらひ

てこれ

乃地

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

多助

帝の子

乱逆時

同月十五日

即堀出

元亨釋書

入道

多助

禪師

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて



























わらふしとてをのびつゝさあはらうもあまぞ  
おれいふうゝわやうよはほぎせりもらん。けううんぞす  
うは。やううのまのたねれぬ人のあまらや也

百

讀此段有餘味

まじりふ家よ。ささうあう

は段ハハの上と漏せり。二藤云ふと。後ハ虚室も。か心のたるとるれと。虚室の差別。之れ別傳。記之。旅々ううやうの物。旅集のやうさお。いふさるり。深衣。蓬生の春。ようう。人。くは。とく。な。く。り。ゆ。り。と。り。あ。り。て。く。と。う。の。内。い。と。ま。の。れ。と。と。り。て。く。と。う。け。と。と。ま。と。う。く。と。う。の。あ。う。と。お。た。よ。年。さ。う。く。く。人。け。ふ。う。さ。う。の。物。も。あ。う。く。く。れ。く。海。を。と。く。く。わ。の。と。と。え。て。や。う。く。と。と。と。あ。う。り。く。と。の。い。下。畧。も。ハ。と。と。つ。い。入。信。た。の。い。く。と。の。い。人。也。人。素。と。ま。也。

人素とま也

山彦 木神 空谷響 樹神

和名弟二云文選蕪城賦木魅山鬼今

案木魅即樹神也和名古太方くけお

性理大全潜室陳氏曰人心

如鏡物來則應物去依舊自在不曾迎

物之來亦不曾送物之去只是定而應

應而定 神秀曰心如明鏡臺 六祖

日明鏡亦非臺 古德云胡來胡現漢

來漢現 七集よりあひ 何れれう

つゝわをそふりくらんやまうる鏡る

心とよもれくるさよやあ〜ん心よわ〜あ〜ま〜うハ

胸のうらちよろここま〜のま〜ハ入〜う〜け〜ま〜

い段ハあまう〜のわ〜そ〜も〜も〜

信非誠心又不可不信而信之愚之所致

也故以爲戒 丹波よおま 息のわよハ〜のう〜

曹英絶句

丹波

知行

く〜さ〜ら〜さ〜ゆ〜ふ〜う〜の  
の氣来りてうはら。かぐみふ  
久〜さ〜ら〜あ〜ま〜う〜ハ〜う  
ら〜さ〜ら〜ゆ〜。虚をく物と  
いふ。わ〜ら〜が〜あ〜ら〜よ〜念〜れ  
わ〜さ〜ま〜ふ〜ま〜り〜 ふ〜も  
丹波よおま。とりのあま。大社  
とうはら。免でたくはく  
ま〜り。ま〜の〜さ〜う〜く〜ら〜志



















よき下りの堂のつれまて去る物へ堂  
傍ハ二塔の堂とせりし者

常行堂 聖文抄云きり堂ハ二塔三昧乃

新拾遺釋教部 山乃常行堂乃流通の

心海上人

東塔ハ止観院東塔の西塔ハ浄去院云

正二位太宰権帥權大納言行成

卿圓融院御宇天録三年必生板十

万号三月二月薨五十六公卿補任

此成るこそ これより並ね河

位署 雖名乃上よ友位と去連ふと位署

とらふ

もくよせおなる成くもこのごひて各見ゆ

行成位署名をき

那蘭陀寺 道眼

八災 憂歡苦樂尋伺出息これハ災

了藏乘法敷より

不化 竹や大能化と云才子と云不化と云

感 乃眼の感

いりよと不化とあかえたり

あれくよとあしひ初あれを

賢助僧正 醍醐三宝院也日野家の

おほきれ 正月八日より十九日

何事あつと後七日のふもろふ

おわり加と八弘乃三密なり

乃三葉なり彼三密をい葉

持經抄曰高野大師神變加持

不測云神異常云變往來出入

而不散為持即入我我入也一

加持力成行者三葉入本尊三

本尊三葉入行者三葉故互入

密加持速疾顯又佛日應衆生

心

考り堂乃うち龍華院

うろろふる龍華院の位

成乃あひごうふひありて

いまい交せたとり傳り

と堂僧としてくくり

しを成るうむうが

るべし依理なるバ重

あつていひひりし

うろろふる龍華院

考り堂乃うち龍華院

うろろふる龍華院の位

成乃あひごうふひありて

いまい交せたとり傳り

と堂僧としてくくり

しを成るうむうが

るべし依理なるバ重

あつていひひりし

うろろふる龍華院

那蘭陀寺とて道眼

王禩義せしよ八災と云

と云れく諸うあかえ

と云れく諸うあかえ

いりよと不化とあかえ

あれくよとあしひ初あ

賢助僧正 醍醐三宝院也

おほきれ 正月八日より

何事あつと後七日のふ

おわり加と八弘乃三密

乃三葉なり彼三密をい

持經抄曰高野大師神變

不測云神異常云變往來

而不散為持即入我我入

加持力成行者三葉入本

本尊三葉入行者三葉故

密加持速疾顯又佛日應

衆生心

考り堂乃うち龍華院

うろろふる龍華院の位

成乃あひごうふひあり

いまい交せたとり傳り

と堂僧としてくくり

しを成るうむうが

るべし依理なるバ重

あつていひひりし

うろろふる龍華院

那蘭陀寺とて道眼

王禩義せしよ八災と云

と云れく諸うあかえ

と云れく諸うあかえ

いりよと不化とあかえ

あれくよとあしひ初あ

賢助僧正 醍醐三宝院也



水云加衆生心水感佛日云持釋其所  
詮者妙感妙德義也

陣乃か 陣の意のまゝとや海の意の海は海味  
る乃あまよとらんらんか海といふをり

賢助傍心乃日たの人  
賢助傍心の意はよとれ

千午あり 釋迦堂あり 二月十九日ハ遺教經  
乃江守あり 遺教經ハ仏涅槃のつとを

志結すこは紅子おき物とあり 志結す  
しちちありて 是堂より遺教入あり

ひんわく ひんわくよりしはひんわく  
さるうらふは信徳也

なく心のともとる人なれんか  
しひい人色いされいしわく

いんく 蓋好ハ風流の流者なれん位  
いんく 蓋好ハ風流の流者なれん位

いひていと久くくくくくくくくくくく

つととあふとびとそれり

先ておりせいとそれり

ぐり入て居てぐくくくくくくくく

二月十九日乃月あり

軟うち交ておのちよ

まうてくくくくくくくくくく

いとりくかぬくくくくくく

種々志ゆるよ優なる女の

姿よあひ人よりことなるは

か入くひさふおれんが首い

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ

あつとくはつとむりあれむびんあくとあひてさるれ



一説云、此の宿は、いしり、誠は、毎年の宿

妻宿 妻二十八宿一ツあり宿の名顔

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

と考ふるが宿書洪範晋星辰註宿音風

亦首秀この説を以てこれと考ふる

妻宿あり

い宿清の宿

あよ月をりてあそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

あそぶ

妻宿あり

い宿清の宿

あよ月をりてあそぶ

あそぶ



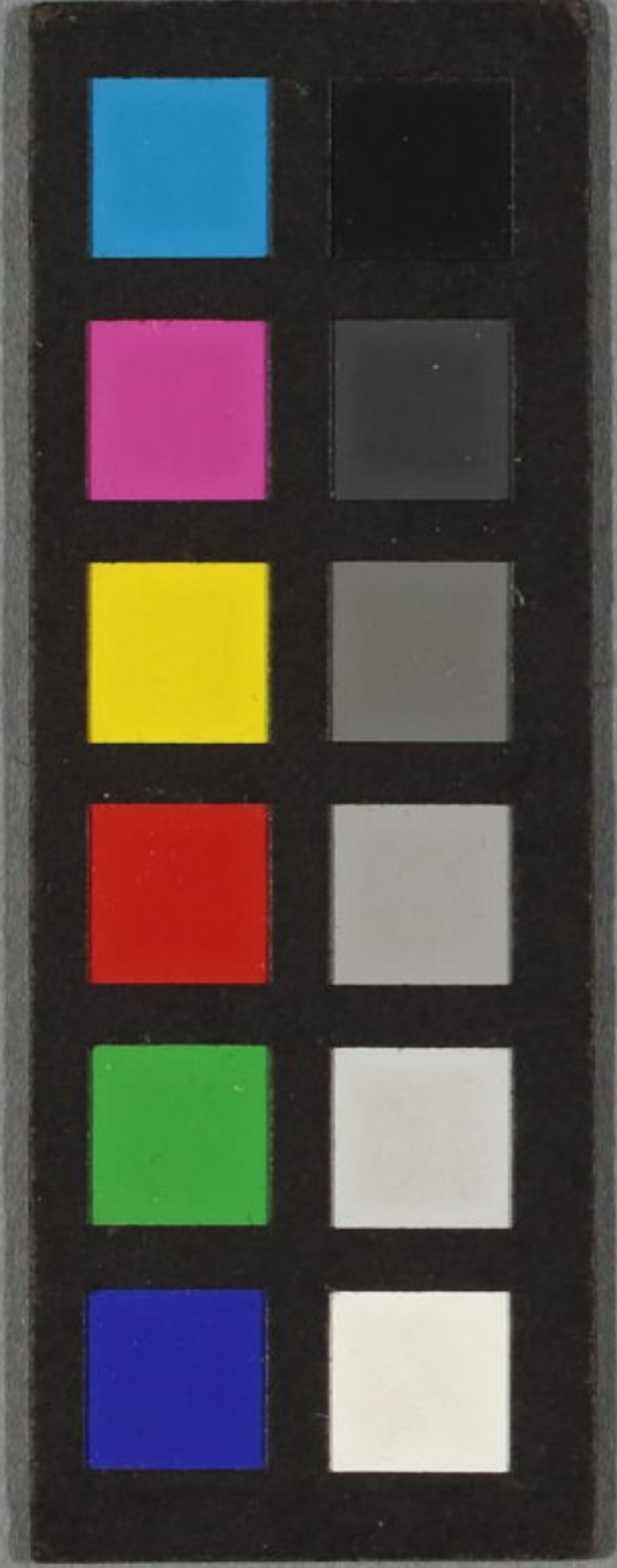








放免此書ノ大夏ニ雜也類  
ト心得ベキナリ









系の事終るは終るは終る乃るは終るは終る  
と云は終るは終るは終るは終るは終る  
中終る一物の事終るは終るは終るは終る  
一念乃田地是を念念念念念念念念念念

句解云史記孟嘗君傳云田文美間問其  
父嬰曰子之子為何云為孫々之子為  
何曰為玄孫々々之孫為何曰不能知  
也云云云云云云云云云云云云云云云

佛說三身壽量無邊經曰文殊白佛言  
我等從昔聞如來說法如來何佛聞此  
說法佛告文殊言過四十一重内大院  
兼大毘盧遮那說法文殊重白佛言四

十一重内大院何者是耶世尊復言過  
十住十行十廻向十地等覺内大院美  
妙覺地大毘盧遮那說法文殊重白佛  
言妙覺地毘盧遮那從何佛美說法世

尊復言妙覺地毘盧遮那美無始無終  
一心一念本佛說法文殊重白佛言無  
始無終一心一念本佛美何佛說法世

尊復言無始無終一心一念本佛美無  
心無念本佛說法文殊重白佛言無心  
無念本佛美何佛說法世尊復言無心

無念本佛上更無佛陀無前佛無後佛  
无心無念本佛以不思議為體無本本  
來無三身性無十界性云今盡不記

義之經非從天降也非從地出也人情  
而已矣 禮記問喪篇云禮

禮記問喪篇云禮

禮記問喪篇云禮

禮記問喪篇云禮

禮記問喪篇云禮

禮記問喪篇云禮

禮記問喪篇云禮

八よあつちししは父は母に  
ししは父は母に

らんとあつちししは父は母に  
らんとあつちししは父は母に

人のあつちししは父は母に  
人のあつちししは父は母に

又いとあつちししは父は母に  
又いとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

またいとあつちししは父は母に  
またいとあつちししは父は母に

しりとあつちししは父は母に  
しりとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に

ふいとあつちししは父は母に  
ふいとあつちししは父は母に







